

# トビウオ通信 (1月号)

http://www2.pref.shimane.jp/suisi/

(TEL 0855-22-1720)

## 《平成 14 年漁期前半の底びき網漁業の動向》

### 小型底びき網漁業 (かけまわし)

島根県の小型底びき網漁業 (かけまわし) 58 隻\*の平成 14 年漁期前半の (平成 14 年 9 月 1 日 ~ 12 月 31 日) の総漁獲量は 2,256 トン、総水揚げ金額は 9 億 7,979 万円でした。1 隻当たり漁獲量は 38.9 トン、水揚げ金額は 1,689 万円で、漁獲量は前漁期を上回りましたが、金額は前漁期および平年を下回りました。

\* 当漁業における島根県全体の操業隻数は 61 隻ですが、統計は 58 隻分の集計です。

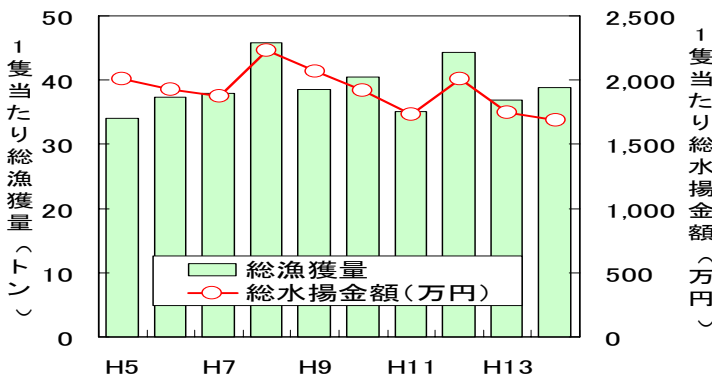


図 1 小型底びき網漁業における 1 隻当たり漁獲量・水揚げ金額の動向

### ソウハチ好調!

近年増加傾向を示しているソウハチの 1 隻当たり漁獲量は 5.1 トンで前漁期を 21% 上回り、平成 5 年以降最高の値となりました。一方、近年資源的に安定しているムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は 2.4 トンで前漁期をわずかに下回りました。また、近年増加傾向にあったヤナギムシガレイの 1 隻当たり漁獲量は前漁期を 15% 下回る 0.6 トン、メイトガレイの 1 隻当たり漁獲量は前漁期を 22% 上回る 1.1 トンでした。

### イカ類依然低調

前漁期から引き続きイカ類は依然低調に推移しています。ケンサキイカの 1 隻当たり漁獲量は 1.1 トンで、平成 5 年以降最低であった前漁期を上回りましたが、平年の 1/2 程度の水揚げしかなく、平成 13 年に次ぐ低い値となりました。また、近年好・不漁が交互に見られていたヤリイカの 1 隻当たり漁獲量は平成 5 年以降最低であった前漁期をさらに下回る 0.4 トンの水揚げしかなく、過去最低の値となりました。

### キダイ過去最高!

近年安定しているニギスの 1 隻当たり漁獲量は 4.4 トンで、平成 11 年以降低調ながらも 4 トン前後で横這い傾向にあります。キダイの 1 隻当たり漁獲量は小型魚 (シバ) を中心にまとまった漁獲があり、前漁期を 43% 上回る 5.3 トンでした。キダイは、近年再び増加傾向にあり、平成 5 年以降最高の値となりました。また近年、資源的に高水準期にあると思われるアンコウの 1 隻当たり漁獲量は 2.8 トンで前漁期をわずかに上回りました。

この他、今漁期はマトウダイ (平年比 1.9 倍)、カワハギ類 (平年比 1.4 倍) がまとまって漁獲

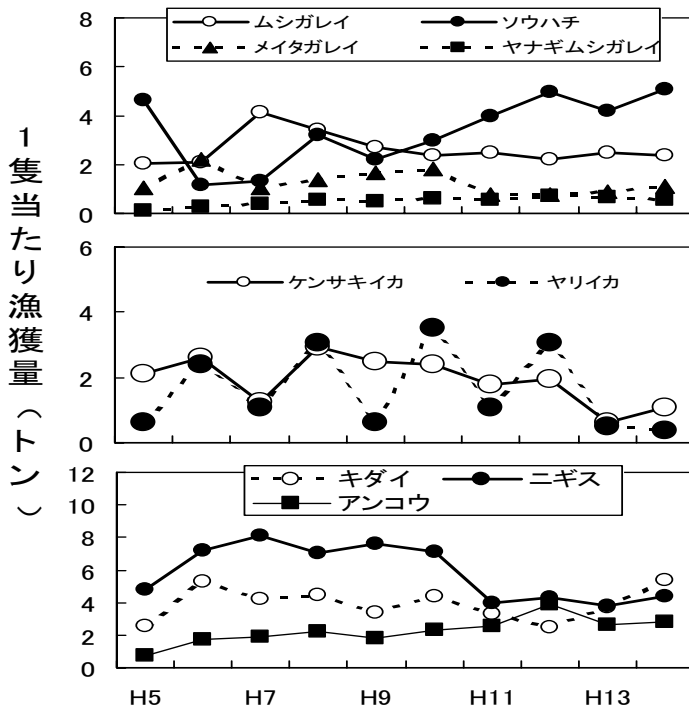


図 2 小型底びき網漁業における主要魚種の動向

され、平年を大きく上回りました。またアマダイも平年の 1.9 倍の漁獲がありました。

## 沖合底びき網漁業(2そうびき)

### 県西部

浜田港を基地とする沖合底びき網漁業(操業統数7ヶ統)の平成14年漁期前半(平成14年8月15日~平成14年12月31日)の総漁獲量は1,827トン、総水揚げ金額は9億2千万円でした。また、1統当たりの漁獲量は261トンで前漁期を2%、平年(過去21年平均)を9%上回りました。水揚げ金額は1億3千万円で前漁期を6%下回りました。

#### カレイ類低調

ムシガレイの漁獲量は昭和56年漁期以降2番目の漁となり、1統当たり52トンで前漁期の89%に留まりましたが、平年を81%上回りました。ソウハチは5トンで前漁期の51%、平年の22%と昭和56年漁期以降最低の水揚げでした。また、ヤナギムシガレイは平成4年漁期から増加傾向にありましたが、今漁期は13トンで前漁期の70%に留まり、平年を2.6倍上回りました。

#### ケンサキイカ好調

ケンサキイカの漁獲量は1統当たり16トンで前漁期を46%上回りましたが、平年を42%下回りました。一方、ヤリイカの漁獲量は平成9年漁期から数トンと低迷が続き、前漁期から1トンを切り今漁期は前漁期の71%、平年の2%と昭和56年漁期以降最低の水揚げでした。

#### アナゴ・アンコウ低調

アナゴの漁獲量は1統当たり18トンで前漁期の66%、平年の91%の水揚げでした。また、アンコウは平成10年漁期から増加傾向にありましたが、今漁期は9トンで前漁期の45%に留まり、平年を34%上回りました。

#### キダイ・アカムツ好調

キダイの漁獲量は昭和56年漁期以降2番目の漁となり、1統当たり27トンで前漁期の2.2倍、平年の4.1倍の水揚げでした。また、アカムツは6トンと前漁期を15%、平年を21%上回りました。一方、ニギスは5トンと前漁期の28%に留まり、平年を57%下回りました。

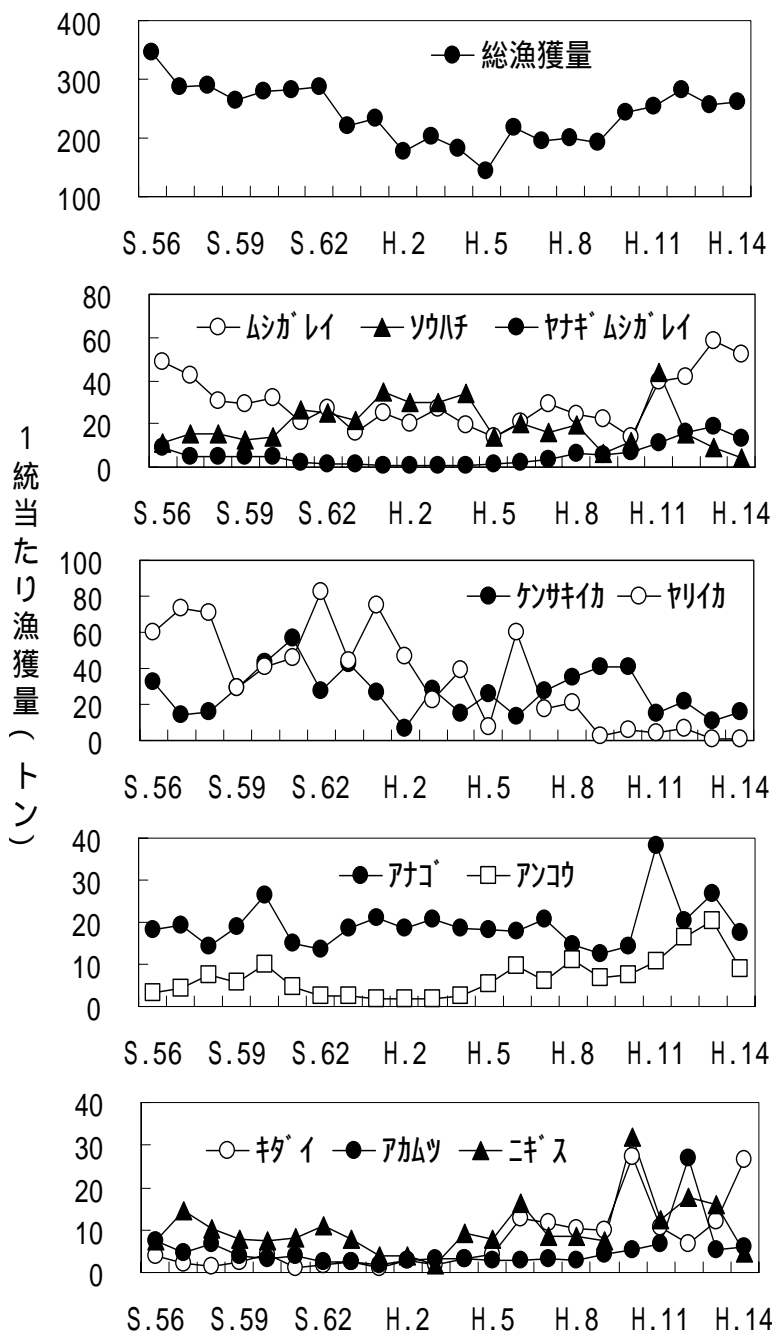


図3 浜田港を基地とする沖合底びき網漁業における主要魚種の動向

### 県東部

恵曇港を基地とする沖合底びき網漁業(4ヶ統)の平成14年漁期前半の総漁獲量は699トン、総水揚げ金額は4億6千万円でした。また、1統当たりの漁獲量は175トンで前漁期を19%、平年を11%下回りました。水揚げ金額は1億2千万円で前漁期の86%に留まりました。

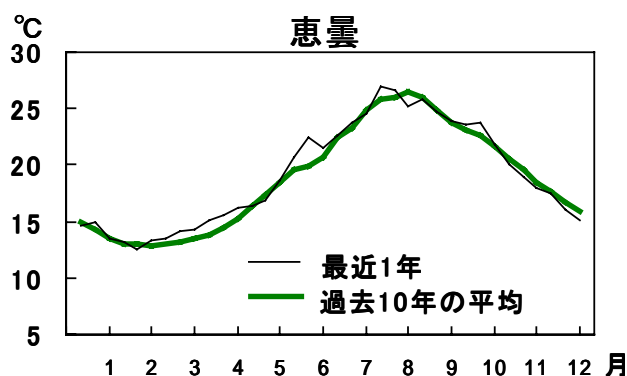
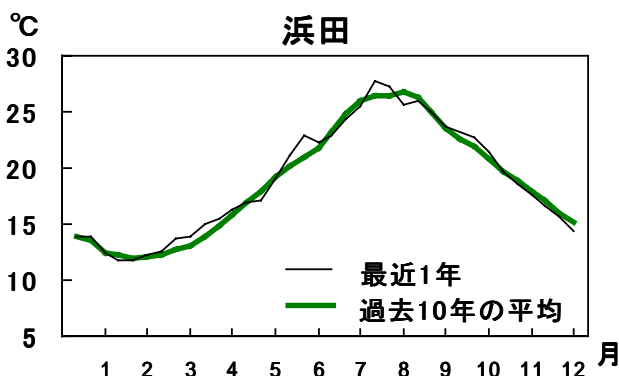
#### ムシガレイ・キダイ・ウマズラハギ・ヒラメ好調、ヤナギムシガレイ・ソウハチ・アナゴ・アンコウ低調

ムシガレイの総漁獲量は111トンで前漁期の1.1倍となり、昭和63年漁期以降最高でした。また、キダイは70トン(前年比33%増)、ウマズラハギは25トン(前年比33%増)、ヒラメは11トン(前年比71%増)の水揚げでした。その他、漁獲量が前年と比べ増加(14%~15%増)した魚種はケンサキイカ17トン、ヤリイカ3トンで、逆に減少(16%~72%減)した魚種はヤナギムシガレイ144トン、ソウハチ13トン、アナゴ66トン、アンコウ72トン、ニギス8トン、アカムツ7トンなどでした。

## 《 12月の海況 》

12月	月平均	平年差	評価
浜田	15.5	-0.5	平年並み
恵曇	16.2	-0.5	平年並み

12月の月平均水温は11月に比べ浜田で3.1、恵曇では2.8 下降しました。浜田、恵曇とも「平年並み」の水温経過となりました。



## 《 12月の漁況 》

### 【中型まき網漁業】

浜田の中型まき網の総漁獲量はマアジ・ソウダガツオ類・サバ類主体に727トン、総水揚金額は7,100万円でした。1統当りの漁獲量は242トンで、平年(過去4ヵ年平均)の74%、前年の73%となりました。水揚金額は2,360万円、平年の74%、前年の92%となりました。西郷では、マアジ・サバ類・ブリ主体に総漁獲量2,579トン、総水揚金額は3億6,000万円でした。1統当りの漁獲量は368トンで、平年の75%、前年の90%となりました。水揚金額は5,150万円、平年の133%、前年の163%となりました。浦郷ではマアジ・サバ類・ブリ主体に総漁獲量512トン、総水揚金額は6,500万円でした。1統当りの漁獲量は170トンで平年の58%、前年の46%、水揚金額は2,180万円、平年の114%、前年の129%および平年をやや上回りました。全般に漁獲量は低調でしたが、隠岐船団はブリが比較的好調であったため、金額はそれほど落ち込んでいません。

### 【イカ釣漁業】

浜田港に水揚げするイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカ、ソデイカ、ケンサキイカを中心に9.7トンで、平年(過去4ヵ年平均)の42%、前年の22%となりました。一方、西郷のイカ釣船(5トン以上)の漁獲量は、スルメイカ、ソデイカを中心に20.3トンで、平年の40%、前年の25%に留まりました。浜田に水揚げされたスルメイカは20入りが主体、ケンサキイカは2段半～3段が主体となっています。

### 【沖合底びき網漁業】

浜田港の総漁獲量は455トン、総水揚金額は2億2,042万円、1統当たり漁獲量は64.9トン(前年比106%、平年比119%)、水揚金額は3,149万円(前年比104%、平年比117%)でした。漁獲の中心はキダイ(前年比266%)、ムシガレイ(前年比125%)でした。

恵曇港の総漁獲量は176トン、総水揚金額は1億1,735万円、1統当たり漁獲量は43.9トン(前年比93%、平年比90%)、水揚金額は2,934万円(前年比96%、平年比96%)でした。漁獲の中心はヤナギムシガレイ(前年比123%)、キダイ(前年比135%)でした。

### 【小型底びき網漁業】

和江・大田市両漁協では、時化の影響により出漁日数が前年に比べ2割減少したため、量・金額は前年を下回りました。しかし、1航海当たりの漁獲量は前年を10～28%、金額は前年をわずかに上回りました。両漁協ともソウハチ主体の漁となっていますが、和江漁協ではキダイ、アンコウ、ムシガレイが、大田市漁協ではニギス、

キダイ、アンコウがまとまっています。このほか、両漁協でカワハギ類が好調であり、前年の7~8倍の漁獲がありました。

### 【定置網漁業】

県全体では漁獲量、水揚金額ともに前年と平年を大きく下回り、特に県西部と隠岐では前年と平年の6割程度の漁獲量、水揚金額となっています。県東部ではカワハギ類、マアジ、ソデイカ、ソウダガツオ、ブリが、県西部ではカワハギ類、ブリ、ソウダガツオ、ソデイカ、マアジが主体となっています。カワハギ類は県東部では前年の約2倍、県西部では前年の約3倍の漁獲量となっています。隠岐地区ではスルメイカ、マアジ、カタクチイワシ、ヤリイカが主体となっています。スルメイカは前年の1/2の漁獲量と低調でしたが、ヤリイカは前年の約10倍の漁獲量となっています。

### 【釣・縄】

県東部と西部では漁獲量、水揚金額ともに前年、平年を下回りましたが、隠岐では漁獲量、水揚金額ともに前年、平年を上回りました。県東部ではサワラ類、ブリ、ヒラマサ、ソデイカが主体となっており、県西部はブリ、ヒラマサ、クロマグロ、アマダイが主体となっています。隠岐ではメダイ、ソデイカ、ブリ、クロマグロが主体となっています。各地区ともブリが好調で、前年の4~20倍の漁獲量となっています。ヒラマサが県東部で前年の約5倍、県西部で前年の約2倍の漁獲量となっているほか、隠岐ではメダイが前年の約4倍の漁獲量となっています。

## 漁獲統計

平成 14年 12月 1日 ~ 31日

漁業種類	水揚港	延隻数 ・統数	主要魚種	1隻(統)1航 海当漁獲量	総漁獲量
中型まき網	浜田	28	マアジ・ソウダガツオ類・サバ類	25.9ト	727ト
	西郷	70	マアジ・サバ類・ブリ	36.8ト	2,579ト
	浦郷	28	マアジ・サバ類・ブリ	18.2ト	512ト
イカ釣り (5トン以上)	浜田	42	スルメイカ・ソデイカ・ケンサキイカ	230kg	9.7ト
	西郷	82	スルメイカ・ソデイカ	247kg	20.3ト
沖底	浜田	37	キダイ・ムシガレイ	12.3ト	455ト
	恵曇	35	ヤナギムシガレイ・キダイ	5.0ト	176ト
小底	和江	366	ソウハチ	599kg	219ト
	大田市	250	ソウハチ	491kg	123ト
定置網	浜田	37	ブリ・カワハギ類・ソウダガツオ	292.0kg	10.8ト
	美保関	115	マアジ・カワハギ類・ソデイカ	415.5kg	47.8ト
	浦郷	61	スルメイカ・カタクチイワシ・マアジ	273.4kg	16.7ト
釣・縄	浜田	878	ブリ・ヒラマサ・アマダイ	25.9kg	22.7ト
	五十猛	322	ヒラマサ・クロマグロ・ブリ	24.7kg	7.9ト

1隻(統)1航海当漁獲量は総漁獲量/延隻数・統数で算出しており四捨五入した値です。